

殺菌水 新型インフルに効果

小山の歯科院長が開発

小山市萱橋の歯科医院「デンタルサロンパンデミック」の野口宗則院長(40)が開発した虫歯・歯周病菌の「殺菌水」が、新型インフルエンザウイルスに対しても高い殺菌能力を持つことが徳島市で開かれた第58回日本ウイルス学会で発表された。従来のエタノール消毒液が殺菌するまで1分かかるのに対し、10秒で殺菌できる上、洗口液として開発されたことから、うがいをするのができ、のどに付着したウイルスを直接、殺菌できるのも強みという。ウイルス感染予防への活用が期待されている。

殺菌水「パーフェクトペリオ」のうがいを指導する野口院長(左)(小山市で)



発表したのは、東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科の田上順次教授(う蝕制御)や山岡昇司教授(ウイルス制御)のグループ。野口院長が2005年に開発した殺菌水「パーフェクトペリオ」の新型インフルエンザウイルスに対する不活性化作用について、殺菌水の濃度と反応時間の関係などを調べた。

その結果、200ppmの低濃度の同液を10秒間、新型

インフルエンザに反応させると、99・9%のウイルスを不活性化させた。通常、手洗いの消毒液として使われるエタノールの場合、30万ppm(30%)の高濃度で1分間、反応させなければ不活性化させないことから殺菌作用は絶大という。パーフェクトペリオは、野口院長が歯周病菌や虫歯菌の根絶のために、白血球が持つ殺菌成分の次亜塩素

酸に注目、炭酸食塩水を電気分解して開発した。うがい用の歯周病予防の洗口液(250ppm)や抜歯せずに消毒治療する高濃度液(650ppm)などが全国の約380の歯科医療施設で採用されている。野口院長は、歯学分野だけでなく、ウイルス学会でも取り上げられ、光栄に思っている。歯科と医科分野の共同研究がさらに進み、パーフェクトペリオを臨床現場で利用してもらい、ウイルス感染の予防や拡大を防ぐことに役立てればうれしいと話している。

インフル感染

足利で学級閉鎖

県教委は16日、インフルエンザの感染で、足利市立御厨小1年の1学級を17日から2日間、学級閉鎖すると発表した。12人が欠席し

私立高学費滞

「3か月以上」

ており、うち2人がA型インフルエンザと診断された。インフルエンザによる学級閉鎖は今季初となる。

県私立学校教職員組合連合は16日、県内の私立高校を対象に行った学費滞納調査で、今年9月末現在、3か月以上学費を滞納している生徒の割合が1・38%だったと発表した。公立高の無償化に伴い、私立高に就学支援金が支給されるようになったが、滞納率は昨年同期(1・45%)とほぼ横ばいだった。

調査は県内の私立高15校

「県庁全面禁煙に」

県医師会の太田照男会長は16日、県庁や公共施設の完全禁煙化と受動喫煙防止条例制定を求める要望書を福田知事と野田尚吾県議会議長に提出した。賛同する約2万2000人分の署名

県医師会長

2万2000人署名つけ要望

簿も手渡し、受動喫煙の弊害を訴えた。要望書は「県民の禁煙が4月の敷地内完全禁煙が達成されていらないと指摘。県庁に屋外喫煙所3か所、議会棟には喫煙室が5室残っており、撤廃を求めた。受けた問題は県

受動喫煙が4月院などし、達課して定が検受けた